

伊賀市議会だより

No.84
2026.2.1

賀会

＜主な掲載内容＞

- 特集 地域の声を市政に届けます！
市議会地域意見交換会 活動報告 ····· P16～17
- 市議会の新しい体制が決まりました ····· P 2～3
12月定例月会議 ····· P 4
10月閉会会議 ····· P 8
市政を問う 一般質問 ····· P10
インタビュー 人と地域がつながってイキイキ活動紹介 ····· P20

行ってみよう 聞いてみよう！



高尾住民自治協議会

後列左から 生涯学習支援員

福田 民子 さん

前列左から 副会長

谷原 武久 さん

市民センター事務員

花岡 穂一 さん

副会長

中井 勝彦 さん

市民センター所長

篠木 素道 さん

会長

新 正明 さん

市民センター事務員

鈴森 範之 さん

会計

立山 繁昌 さん

関連記事は20ページ

市議会の新しい体制が決まりました

副議長

やました のりこ
山下 典子

議長

にしぐち かずしげ
西口 和成

監査委員

やまぐち やすこ
山口 康子

議長・副議長 あいさつ

このたび、令和7年伊賀市議会定例会令和7年11月開会会議におきまして、議長・副議長に就任いたしました。

昨今の社会情勢は、物価の高騰をはじめ、日々の市民生活に大きな変化の波が押し寄せています。そのような中、令和6年11月に市議会議員と市長の同時選挙を実現し、地域との意見交換会の開催など着実に議会改革に取り組んでまいりました。

二元代表制の一翼を担う市議会は、条例や予算・決算を含めた各種議案審査をはじめ、政策提案、執行機関に対するチェック、

広報広聴など様々な役割や権限があります。これらを機能させ、市町村合併から20年を経た伊賀市を、より市民に信頼され市民に開かれた議会改革の推進、そして活力に富み、魅力的なまちにしていくことが伊賀市議会に課せられた使命だと考えています。

議会と執行機関との真摯な議論により、市政の諸課題に有効な政策を推進していくかなければなりません。市民の皆さんにおかれましては、市議会に対し、より一層のご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

◎…委員長 ○…副委員長

予算・決算常任委員会

予 算 予算及びこれに関する事項を所管

◎山下 典子 ○福村 教親 委員は議長を除く20議員

決 算 決算及びこれに関する事項を所管

◎山下 典子 ○福村 教親 委員は議長と監査委員を除く19議員

議会運営委員会

議会を円滑・能率的に行うため、日程や審議内容を審査

◎赤堀 久実 ○福村 教親
寺村 京子 北山太加視
宮崎 栄樹 中岡 久徳

その他組合等議会

伊賀南部環境衛生組合

青山地域と名張市のごみ処理、し尿処理施設の管理運営に関する事項を審議

福村 教親 陶山 美佐
宮崎 栄樹 中岡 久徳

三重県後期高齢者医療広域連合

三重県内の後期高齢者医療制度の運営に関する事項を審議

西口 和成

伊賀市議会会派一覧

会派とは、「政策を中心とした同一理念を共有する議員で構成し、活動する」集団です。すべての議員が会派に所属しているわけではありません。

なお、伊賀市議会申し合わせ事項により、議長は会派から離脱することとなっています。

(令和7年12月16日現在)

会派名 (50音順)	会派の活動方針	所属議員 ○は代表者
きみと伊賀	まちを、あなたと考えるチーム 市民のみなさんと一緒に考え、行動し、子どもたちに誇れる伊賀をつくっていきます	◎陶山美佐 寺村京子
草の根・無所属フォーラム	多様性、持続可能性、平和を大切にして、次世代につないでいくまちづくりを目指す	◎森中秀哲 浅川友和 大石亮子 西田方計 宮崎栄樹
公明党	「大衆とともに」との立党精神で現場第一主義をモットーに市民の声を市政に反映	◎赤堀久実 内原 篤 山口康子
市民の風	市民の声をよく聴き市政に反映できるように取組む	◎北山太加視 山下典子
新政会	市民の声を市政に反映	◎北森 徹 福村教親 (西口和成※再掲)
会派に所属していない議員		森川 徹 西口和成 (議長) 福岡正康 桃井弘子 上田宗久 百上真奈 中岡久徳

常任委員会委員

◎…委員長 ○…副委員長

※議長は、常任委員会には所属しません。

総務常任委員会

未来政策部、総務部、地域力創造部、財務部、地域連携部、人権生活環境部、防災危機対策局、出納室などの事項、その他の委員会に属さない事項を所管



○福村 教親



○寺村 京子



森中 秀哲



山下 典子



赤堀 久実



上田 宗久



百上 真奈

教育民生常任委員会

健康福祉部、上野総合市民病院、教育委員会の事項を所管



○桃井 弘子



○浅川 友和



大石 亮子



山口 康子



森川 徹



北森 徹



福岡 正康

産業建設常任委員会

産業農林部、建設部、消防本部、上下水道部、農業委員会の事項を所管



○北山太加視



○陶山 美佐



内原 篤



西田 方計



宮崎 栄樹



中岡 久徳



伊賀市行政組織条例等の一部改正

行政組織を再編し、総合計画の推進体制を強化

可否同数で
否決*

第3次総合計画の推進に向け、行政組織体制を見直し、企画部門と財政部門の一体化など、部局間の連携強化を図るもので

※可否同数のため、議長裁決により否決

●主な質疑（総務常任委員会 12月10日）

問 今回の組織改編は、ボトムアップではなくトップダウンではないですか。現場の意見はどのように反映されていますか。

答 市長の意向を踏まえた枠組み案をもとに、各部局長へのヒアリングを行い、組織改善委員会での検討を経て決定しました。

問 企画部門と財政部門を同一部内に置くことで、財政面のチェック機能が弱まるのではないか。

答 行政改革や財政運営の視点を一体的に持つことで、効率的かつ規律ある行財政運営につなげていきます。

問 地域力創造部の規模が大きくなることで、支所の業務負担の増加やマネジメントが行き届かなくなる懸念はないですか。

答 支所は地域と市全体をつなぐ重要な役割を担っており、連携を強化しながら機能低下を招かないよう運用していきます。

●討論（本会議 12月19日）

賛 成 短期間での再改編となり、現場職員の理解や納得が、十分でない点は懸念があります。一方で、第3次総合計画を進めるためには部局間の連携強化が必要であり、市長が結果責任を持ち、現場との対話を重ねることを求めます。

賛 成 企画と財務の連携強化は、これから限られた財源を効果的に使うために有効です。財政のブレーキ機能は議会も果たしていくべきです。

賛 成 第3次総合計画を議会も承認しています。運用体制を認めないことは、計画遂行がうまくいかない場合の言い訳を与えることになります。特に財政と企画の一体的な運営についてはより施策と財源を一体的に考えられるようになると評価します。

賛 成 支所管轄部署変更により、特に地域の声、とりわけ福祉関係の意見を市長に届けることへの不安はありますが、組織だけではなく人事も含め、市長のリーダーシップに期待しています。

賛 成 獣害対策や空き家対策体制の強化、住民自治協議会との対話支援など、分野横断的かつ長期的な視点での行政施策の具体化をめざしている点は評価します。一方で、行政サービスの民間委託や自治体の役割については慎重に検証し、公共サービスの再生と自治体機能の拡充を期待します。

反 対 地域課題の解決を担う支所機能の強化は部署の再編ではなく、マンパワーの充実こそ必要です。また保険年金課が健康福祉部から市民生活部に移行することで診療所運営に関する課題解決が進まないのではないか。企画機能と財政を担う部門が一体化することも懸念されます。

反 対 市の安定した財政を支えてきた財務部の機能が分散されることで弱まることが懸念されます。市の将来を見据え、職員が同じ思いを共有し進めるには、もう少し時間をかけて議論を重ねるべきです。



可否同数と意見が割れ、議長裁決で否決された組織改革案

伊賀市駐車場条例の一部改正

市営城北駐車場が4月より全日無料に

上野公園付近における観光バスの停車場所の確保や周辺施設利用者の利便性向上を目的として、現在は休日のみ有料となっている市営城北駐車場を、4月から全日無料とするものです。

全員賛成で
可決

●主な質疑 (総務常任委員会 12月10日)

問 城北駐車場の収支はどのようになりますか。

答 無料化により有人の集金業務はなくなるものの、引き続きトイレや施設の整備・管理に係る費用が発生するため、赤字での運営となります。

問 費用対効果の検討や機械式を導入することによるコストの比較はしていますか。

答 機械式導入に向けての研究はしています。費用対効果だけでなく観光振興につながるよう政策的に検討しています。

問 観光バスの停車場としての活用が示されていますが、利用実態や効果をどのように把握していきますか。

答 現時点では詳細な管理は行いませんが、課題として認識しています。

●討論 (本会議 12月19日)

賛成 赤字での運営が前提となり、費用対効果や検証方法に課題があります。一方、新図書館の開館に伴い、観光目的や市民利用のため無料駐車機能の確保が必要であることも踏まえ、今後、周辺の公共駐車場全体について利便性と収支改善の検討を求める。

賛成 以前から当該駐車場では廃車や廃材の放置などが問題になっています。無料化・無人化しそうにならないよう担当課が定期的な巡回を必ず行うことを求めます。

賛成 伊賀市の観光が伸び悩む中、駐車場を無料化しただけで観光客が増えるとは思いません。観光バス誘致を目的にするのであれば県内県外にも周知することを求めます。



市営城北駐車場 4月からの無料化で観光の活性化なるか

工事施行に関する協定の変更

JR新堂駅跨線橋工事は令和8年1月末に完成予定

全員賛成で
可決

JR 新堂駅のホームと駅の両側を結ぶ跨線橋の老朽化に伴う修繕工事について、請負差金や工事工程の精査、保安工配置の見直しにより必要経費が削減されたため、その協定金額を変更するものです。

●主な質疑 (産業建設常任委員会 12月12日)

問 完成時期はいつ頃になりますか。工事期間については令和8年2月13日頃までと表示がある一方で、工期12月25日との表示もあり完成時期が分かれりにくく、利用者は混乱しませんか。

答 令和7年12月末には全ての工事を完了する予定でしたが現在、令和8年1月末の予定で進捗しています。看板についてはJR西日本と工事の施工者の契約が整い次第変更されると見込んでいます。

問 点字ブロックは安全に利用できるようになりますか。

答 点字ブロックは全て新しく更新し、元の状態になります。

●討論 (産業建設常任委員会 12月12日)

賛成 ユニバーサルデザインを考慮した跨線橋を含む駅の周辺整備を行うことが重要です。また、工事期間中は利用者が安全に通行できることを最優先するべきです。

賛成 工事中の誘導員の丁寧な対応を評価します。工事完成後も水溜まりなどの解消について、一層の配慮を求める。



令和8年1月末工事完成のJR新堂駅跨線橋

伊賀市上野図書館設置条例の一部改正

市立図書館は、令和8年4月から3つの拠点に集約へ

島ヶ原図書室、大山田図書室を閉館し、伊賀市中央図書館・北部図書館・南部図書館に名称および位置を改めるものです。

賛成多数で
可決

●主な質疑 (教育民生常任委員会 12月11日)

問 島ヶ原・大山田図書室が廃止されますが、代替サービスはありますか。

答 移動図書サービスを実施し、貸出・返却や予約など、図書館と同様のサービスを提供します。

問 学習や居場所としての機能はどうなりますか。

答 新図書館の利用を基本とし、利用が難しい地域については、他の居場所の確保も検討します。

問 読み聞かせや地域活動は継続できますか。

答 学校施設などで継続できるよう調整し、実施日に移動図書サービスも行います。

問 図書館の名称はどのような年齢層の方が、どのような過程で決めましたか。

答 公募委員も含めた図書館協議会にて承認されています。その後、教育委員会の承認を得たのち、議員全員協議会にて説明を行っています。

問 愛称募集の予定はありますか。また、募集にかかる期間はどれくらいですか。

答 今後、検討していきます。実施する場合、期間は5ヶ月から半年程かかります。

●討論 (教育民生常任委員会 12月11日)

賛成 図書室の廃止により、地域の居場所機能が失われないか懸念があります。市は、移動図書サービスの実施や、広い視点で居場所の確保を検討するとしています。その取り組みが着実に進むことを求めます。

賛成 多くの市民が利用する施設なので名称は大切です。愛称を公募するのは必須です。

賛成 市が一つになるという思いが込められた名称だと受け止めています。市民みんなが親しめる図書館として期待しています。

●討論 (本会議 12月19日)

賛成 行政機能を三つに分ける考え方や、先行事例である阿山図書室の課題、図書館名称と行政区画の整理など、今後検討すべき点があると考えます。一方で、これらの課題を受け止め、改善に取り組むことを前提に、将来を見据えた図書館体制の再構築を望みます。

反対 島ヶ原・大山田図書室は赤ちゃんの読み聞かせ、学生の学習、郷土資料の閲覧など、地域に根ざした大切な役割を担っていました。これらは移動図書館では代替できません。図書館は身近な学びを支える社会教育施設であり、廃止は認められません。

反対 島ヶ原・大山田図書室の廃止には賛同できませ

ん。地域の図書室は、子どもの読書や学びを支える社会教育の拠点であり、移動図書では代替できません。身近な図書室を失うことは、社会教育の後退につながります。

反対 現在の図書室は、地域にとって欠かせない学びと交流の場です。代替案は一時的な対応にとどまり、図書館の役割を十分に補うものではありません。新中央図書館の整備には理解を示しつつも、地域図書室の廃止については、もう一度立ち止まって慎重に検討していただくことをお願いします。



令和8年4月より新図書館体制へ

伊賀市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例等の一部改正

地域限定保育士制度は、地域での保育人材の集中確保に向けての取り組みです

賛成多数で
可決

三重県で始まる地域限定保育士を活用し、地域の実情に応じた保育体制を整えるため等の条例改正です。

●主な質疑 (教育民生常任委員会 12月11日)

問 地域限定保育士とはどんな制度ですか。

答 三重県内で有効な保育資格で、県の試験に合格した人が取得できます。一定期間の実務経験を積むことで、将来は保育士資格へつなげることもできます。

問 地域限定保育士が導入されると、どんな効果がありますか。

答 保育人材の確保につながり、地域の実情に応じた安定した保育や子育て支援を続けやすくなります。

●討論 (本会議 12月19日)

反対 保育士は、子どもの最善の利益を守り、家庭や地域を支える専門職です。資格要件を緩和するのではなく、待遇改善や働きやすい環境づくりこそが必要です。



請願

桐ヶ丘汚水処理施設の公共移管問題

賛成多数で
採択

(要旨)

平成30年12月の定例市議会本会議において「桐ヶ丘地区汚水処理施設の公共移管について」に係る請願を全会一致で採択していただきました。その後は伊賀市と種々の協議を重ね市職員から住民説明会で本事業を進めるための条件提示があり私たちはその条件を満たしました。令和6年11月に稻森市長が就任されましたが、行政の継続性の観点から、これまでの経緯を踏まえて、住民説明会での約束に具体的に取り組んでいただきたく請願いたします。

【請願者】 桐ヶ丘地区住民自治協議会会長
 上田 真希

【紹介議員】 山口 康子

●質疑 (産業建設常任委員会 12月12日)

問 市当局にお聞きします。市の方針と地元の選択が相違していることを、これまで住民自治協議会側に伝えていたのですか。

答 (当局) 市が管理者となる場合の2つの方向性を示し、それ以外については実現が非常に難しいことを説明しましたが、地元の皆さんの考え方でそれ以外の案について、同意の取得や啓発活動を積極的に進められてきたと認識しています。

問 請願者にお聞きします。本請願の目的は、公共下水道への移管を求めるものですか。それとも、移管ありきではなく、これまで移管に向けて努力してきた地域住民に寄り添った、今後に向けての丁寧な説明を市に求めるということでしょうか。

答 (請願者) 移管については社会情勢の変化や財政的な事情による難しさは十分理解しています。そのうえで、これまで市から個別の説明を受けたのみであるため、本請願は市から地域に正式な形での説明に来られることを求めます。

●討論 (産業建設常任委員会 12月12日)

賛成 桐ヶ丘の汚水処理施設を公共移管する思いは、旧青山町当時の住民の願いです。一方で長年この問題に関わってきた関係者からは移管ありきではなく、市が改めて説明責任を果たすべきだとの意見もあります。市には、地域と真摯に向き合い丁寧に説明責任を果たすことを期待します。

賛成 市の担当者の苦労も理解するが、市の説明や協議が住民の納得できるものになつていれば、現在の不安につながらなかつたのではないかと考えられます。今後は住民の理解と安心につながる対応がなされることを期待します。

賛成 老朽化した施設について、災害を考えると、早急に対応することが必要です。

議員発議

危機的状況にある自治体病院の存続に向けた財政支援を求める意見書の提出

全員賛成で
可決

(要旨)

自治体病院は、地域の民間医療機関では採算性の観点から扱い難い救急、小児、周産期等の高度医療の実施、さらには感染症や災害対応など、地域の医療提供体制の維持に不可欠な役割を果たしている。

こうした自治体病院の責務を果たすため、多くの自治体は一般会計から多額の拠出金を負担しており、自治体病院は、現在の収支構造では行政の財政負担がなければ持続的な運営はできない。

よって政府におかれでは、地域の医療体制を守る自治体病院の経営改善を図ることは、国の責任において取り組むべき重要な課題と捉え、以下の事項について早急かつ具体的に対応するよう強く要望する。

- 診療報酬については、物価高騰や賃金等の上昇に適切に対応する仕組みを導入すること。
- 特に、令和8年度の診療報酬改定については、入院基本料の大幅な引き上げを行うこと。
- 自治体病院の経営の現状を考慮し、当面の経営上の危機を回避するためにも、令和8年度の診療報酬改定を待つことなく、人件費や物価高騰など費用増に対応した、緊急的な財政支援を行うこと。
- 地域医療介護総合確保基金は、病床再編や人材確保等を目的に整備され、建替や整備事業にも活用可能であるが、現行水準では建替・更新の実効性が低く、自治体の地域間格差も拡大しており、制度の抜本的見直しが必要である。よって、建替・更新整備のために活用しやすい制度にすること。

【提出者】 伊賀市議会議員

赤堀 久実 陶山 美佐
北山 太加視 森中 秀哲
北森 徹

【提出先】 内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、厚生労働大臣

●討論 (本会議 12月19日)

賛成 令和6年度の診療報酬改定では、物価上昇に十分対応できておらず、特に赤字経営が多い自治体病院に配慮した仕組みが必要であるため賛成します。



伊賀市の自治体病院 上野総合市民病院

令和7年度伊賀市一般会計補正予算(第5号)

11億1,567万円の増

全員賛成で
可決

人事院勧告に準拠した給与改定による職員人件費の補正を行うほか、大山田公共施設複合化整備方針に基づく複合施設整備に必要な事業用地を取得する経費、「こども誰でも通園制度」に対応するための経費、危険鳥獣(クマ等)が生活圏に出没した場合の緊急銃猟に対応するための経費などを追加。

【歳出の主なもの】

○職員人件費	2億9,273万7千円
○大山田複合施設整備事業	4,283万4千円
○保育所管理運営事業	527万5千円
○不妊治療等助成事業	
不妊治療助成金	287万5千円
(見込みによる増額分197万5千円、PGT-A*を含む助成分90万円)	
○有害鳥獣駆除事業	112万8千円
○旧上野ふれあいプラザ跡地利活用事業	24万4千円
○学力向上推進事業	34万1千円

*PGT-A 体外受精、採卵によって得られた胚の染色体数を調べる検査

質疑(予算常任委員会 12月15日)

民生費

問 保育所の修繕料229万5千円は、どのような仕組みで予算を組むことになったのですか。

答 安全衛生委員会等の施設巡視をさせていただいた中で、緊急性の高い修繕箇所と、消防設備点検の結果の不良箇所を計上しています。

衛生費

問 不妊治療等助成事業で、保険適用外のPGT-Aを含む助成をしていただきますが、増額分で何人を見込んでいますか。また、PGT-Aを含む助成分も何人を想定されていますか。

答 特定不妊治療の助成については、もともと30万円の上限で2名を見込んでいましたが9月までの実績で5件の申請がありました。それ以降も4件の申請を見込み、合わせて9件を想定しています。PGT-Aを含む助成分も上限30万円で3件を見込んでいます。

農林業費

問 有害鳥獣駆除事業の緊急銃猟の捕獲者について教えてください。

答 鳥獣被害対策実施隊の要綱を設置しており、市長が任命した猟友会の会員の方でライフル銃を所持している方に対して捕獲者となっていただくような形で考えています。

土木費

問 旧上野ふれあいプラザ跡地活用デザイン会議委員は何名で何回の会議を予定していますか。また、地元の方への説明会は予定されていますか。

答 10名程度で、年度内に3回程度の会議を予定しています。そして、4月から5月くらいに地元の方へ説明の機会を作ろうと考えています。



旧上野ふれあいプラザ

教育費

問 学力向上推進事業の事業推進報償費について内容を教えてください。

答 伊賀市立中学校の生徒に係る成績評価基準の策定事務を進めるにあたり、必要な調査検討および基準の作成等を行う会議に非常勤講師が参加する経費です。

討論(本会議 12月19日)

賛成 大山田公共施設複合化整備方針に反対の立場ではありますが、用地買収は必要ということで賛成します。

令和7年度伊賀市一般会計補正予算(第6号)

2億2,670万6千円の増

0歳から18歳までのこどもに1人あたり2万円を支給

全員賛成で
可決

○物価高対応子育て応援手当事業 2億2,670万6千円

質疑(本会議 12月19日)

問 給付方法やスケジュールは。

答 令和8年1月中旬通知を送付、その後2週間程度受給拒否の届出期間を設け、その届出がなければ、プッシュ型支給方法で2月下旬を目途に給付します。

10月閉会会議

10月31日 議案1件を審議

伊賀市議会基本条例の一部改正

議員発議で 伊賀市議会基本条例を一部改正

全員賛成で
可決

改選後1年たち、議会運営委員会にて議会基本条例を検証。

政策形成に反映させるための参考人制度・公聴会制度に第三者の専門家の意見を反映できることなどが明記されました。

審議した議案と各議員の賛否

10月閉会会議

○：賛成 欠：欠席 -：赤堀議員は議長のため採決に入っていません。

件 名		賛成：反対	議決結果	浅川 友和	内原 篤	大石 亮子	陶山 美佐	寺村 京子	山口 康子	北山 太加親	西田 方計	森中 秀哲	福村 教親	森川 徹	北森 徹	西口 和成	福岡 正康	宮崎 栄樹	桃井 弘子	山下 典子	赤堀 久実	上田 宗久	百上 真奈	中岡 久徳
議員提出議案	伊賀市議会基本条例の一部改正	18 : 0	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	

11月開会会議

○：賛成 除：除斥 -：西口議員は議長のため採決に入っていません。

件 名		賛成：反対	議決結果	浅川 友和	内原 篤	大石 亮子	陶山 美佐	寺村 京子	山口 康子	北山 太加親	西田 方計	森中 秀哲	福村 教親	森川 徹	北森 徹	西口 和成	福岡 正康	宮崎 栄樹	桃井 弘子	山下 典子	赤堀 久実	上田 宗久	百上 真奈	中岡 久徳
市長提出議案	監査委員の選任	19 : 0	同意	○	○	○	○	○	○	除	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	

12月定例月会議

○：賛成 ×：反対 -：西口議員は議長のため採決に入っていません。

件 名		賛成：反対	議決結果	浅川 友和	内原 篤	大石 亮子	陶山 美佐	寺村 京子	山口 康子	北山 太加親	西田 方計	森中 秀哲	福村 教親	森川 徹	北森 徹	西口 和成	福岡 正康	宮崎 栄樹	桃井 弘子	山下 典子	赤堀 久実	上田 宗久	百上 真奈	中岡 久徳
市長提出議案	伊賀市行政組織条例等の一部改正	10 : 10	*否決	○	×	○	×	○	×	×	○	○	×	○	×	-	○	○	×	×	×	○	○	×
	伊賀市長及び副市長の給与及び旅費に関する条例等の一部改正	16 : 4	可決	○	○	○	×	○	×	×	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	×
	伊賀市手数料条例の一部改正	19 : 1	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	×	○	○	○	○	○	○	○
	伊賀市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例等の一部改正	19 : 1	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	×
	伊賀市上野図書館設置条例の一部改正	16 : 4	可決	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	-	×	○	○	○	○	○	○	×
請願	桐ヶ丘汚水処理施設の公共移管問題	19 : 1	採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	×

※可否同数のため、議長裁決により否決

全員賛成で可決（同意を含む）した議案

（※の議案は福岡議員が欠席のため、採決に入っていません。）

市長提出議案	● 令和7年度伊賀市一般会計補正予算（第5号）	● 伊賀市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正
	● 令和7年度伊賀市国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）	● 伊賀市集会施設条例の一部改正
	● 令和7年度伊賀市駐車場事業特別会計補正予算（第1号）	● 伊賀市農林関係土木事業分担金徴収条例の一部改正
	● 令和7年度伊賀市介護保険事業特別会計補正予算（第2号）	● 伊賀市建築基準法等関係手数料条例の一部改正
	● 令和7年度伊賀市後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）	● 伊賀市盲人ホーム条例の廃止
	● 令和7年度伊賀市病院事業会計補正予算（第2号）	● 伊賀市シルバーワークプラザ条例の廃止
	● 令和7年度伊賀市水道事業会計補正予算（第1号）	● 工事施行に関する協定の変更
	● 令和7年度伊賀市下水道事業会計補正予算（第1号）	● 財産の無償譲渡（伊賀市盲人ホーム）
	● 令和7年度伊賀市島ヶ原財産区特別会計補正予算（第1号）	● 指定管理者の指定（伊賀市文化会館、青山ホール、伊賀市ミュージアム青山頌舎、しらさぎ運動公園多目的グラウンド、しらさぎ運動公園屋外ゲートボール場、しらさぎ運動公園管理棟、上野東部地区市民センター、上野南部地区市民センター、久米地区市民センター、中瀬地区市民センター、猪田地区市民センター、花垣地区市民センター、島ヶ原地区市民センター、放課後児童クラブキッズうえの、島ヶ原放課後児童クラブ、大山田放課後児童クラブ「あっとほうむ」、青山ハーモニー・フォレスト、だんじり会館）
	● 令和7年度伊賀市大山田財産区特別会計補正予算（第1号）	● 伊賀市の特定の事務を取り扱う郵便局の指定の取消し
	● 伊賀市印鑑条例の一部を改正する等の条例の制定	● 固定資産評価審査委員会委員の選任（前島 卓弥氏、藤森 尚志氏、鎌元 理恵子氏、中林 靖裕氏、川口 健氏、百田 光礼氏）※
	● 伊賀市監査委員条例等の一部改正	● 教育委員会委員の任命（岡森 史枝氏）※
	● 伊賀市職員の給与に関する条例の一部改正※	● 伊賀市特定乳児等通園支援事業の運営に関する基準を定める条例の制定
	● 伊賀市任期付職員の採用等に関する条例の一部改正※	● 令和7年度伊賀市一般会計補正予算（第6号）
	● 伊賀市短時間勤務会計年度任用職員の報酬、期末手当、勤勉手当及び費用弁償に関する条例の一部改正※	
	● 伊賀市会計年度任用職員の給与に関する条例の一部改正※	
	● 伊賀市駐車場条例の一部改正	
議員提出議案	● 危機的状況にある自治体病院の存続に向けた財政支援を求める意見書	

こ こ が 聞 き た い

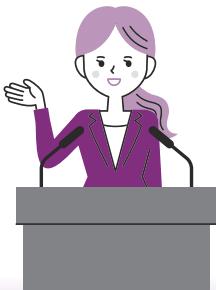
市政を問う



一般質問

一般質問は、12月5日、8日、9日の3日間で、17人の議員が市政に対して質問をしました。その主なものを掲載しています。

二次元コードからは、各議員の一般質問の動画 (YouTube) をご覧いただけます。



問 災害支援及び災害応援協定の締結状況は

答 現在、132件締結して災害に備えています

災害に備え人的・物的支援を相互に協力し合う協定として、国や県内外の自治体と25件結んでいます。また、同様に民間企業から社会貢献活動の一環として申し出を受けた応援協定も、平成19年以降107件に達し、令和7年5月にも避難所の提供を申し出ていただくなど充実してきました。今後は、被災時に重要となる2次避難所の確保に取り組み、さらに災害に備えたいと考えています。

問 全国的に不足している医療や福祉、土木、建築職などの人材確保の状況は

答 自治体間だけでなく民間とも競合の状況にあり人材確保は大きな課題です

公務職場の魅力発信や通年募集、専門試験の廃止、年齢要件の拡大など毎年度見直しを行なながら採用試験を実施しています。潜在する多様な志望者が公務職場を選択しやすい、働きやすい環境づくりとキャリアアップをめざせるよう考えながら人材確保に努めます。

きたやま た かし
北山 太加視 議員

質問項目
●災害への備え
●職員採用・人材確保



おおいし りょうこ
大石 亮子 議員

質問項目

- すべての子どもの学びが保障される伊賀市へ
- 子どもの最善の利益の観点から「子ども誰でも通園制度」を考える
- 利用可能な公共交通空白地域における高校生の通学手段の確保



問 不登校から「多様な学びの保障」への転換を

「不登校への偏見をなくしてほしい」「学校が変わってほしい」これは学校に行きづらさを抱える子どもたちの声です。教育支援センター等に繋がれず、学びの機会を得られていない児童生徒の状況について伺います。

答 学校復帰にこだわらず支援を進めています

学校に戻ることだけを目標とせず、その子が安心して過ごせることを大切にした支援が必要です。スクールカウンセラー等と連携し一人ひとりに合った関わり方を検討しています。心と体を休めることが次に繋

がる場合もあり、寄り添いながら支援を続けていきます。

問 4月スタートの「こども誰でも通園制度」

制度のねらいと、どこでの実施を考えているか伺います。

答 まずは公立保育所で開始します

保育所に通っていない乳幼児も様々な体験を通して育ちを支える制度として進めていきます。来年度は公立保育所で開始し子育て支援センターでの実施も検討していきます。

☆一般質問☆ 本文は、質問議員が執筆し、質問議員の責任において掲載しています。

一般質問

もりなか ひであき
森中 秀哲 議員

質問項目

- 南海トラフ巨大地震を想定した「災害関連死を出さない避難所体制」構築



問 在宅避難をもっと市民に勧めましょう

能登半島地震では避難所生活等が原因で体調を崩し、450人以上が災害関連死しました。特に高齢者・乳幼児・ペットのいる家族には、在宅避難が有効です。

答 市民に周知します

慣れた生活環境、プライバシー、感染症リスク抑制など、在宅避難には多くのメリットがあります。日頃から自宅の耐震、家具固定、食料等備蓄などを行っていただくよう、周知していきます。

問 災害関連死を出さない避難所基準に

避難所生活が原因の災害関連死から市民

を守るには、最低でも国際標準「スフィア基準」*に従った質の高い避難所が必要です。

答 実現に向け、国に声を上げます（市長）

国・県もスフィア基準を満たす避難所の実現を求めていきます。実現には災害発生前からの体制整備が不可欠ですが、市の倉庫の収容能力、財源、人材には限界があります。国に対しては、市町村まかせにせず、国家的課題として認識するよう声を上げ、支援を求めます。

*スフィア基準

災害や紛争の被災者の生命・尊厳・健康を守るために必要な最低基準として、国連・赤十字をはじめ世界の人道支援団体が協力して定めた国際基準

すやま みさ
陶山 美佐 議員

質問項目

- 青山保健センター運動施設プールの今後
- 認知症見守り安心シール
- ガバメントクラウドファンディング（GCF）を活用し地域の介護予防や送迎支援



問 ガバメントクラウドファンディングとは

自治体が実施する地域課題に対し、ふるさと納税の仕組みを利用し寄付を募るクラウドファンディング型の取り組みです。

寄付者は税控除を受けられ、資金の使い道が明確で説得力が高い仕組みです。高齢化が進む地域活動を継続させるために、このような取り組みを進める考えはありますか。

答 今後研究していきます

取り組みを支援するための財源確保の手段の一つとして今後研究していきます。

問 認知症見守り安心シールの登録数

認知症などで帰宅困難な高齢者を早期発見保護する二次元コードシールです。衣服などに貼れば発見者が読み取り連絡でき安全な保護に繋がります。

答 23件の登録数です

問 誰もが必要な身近な制度に

予防段階から誰もが利用できる身近な制度として位置付け登録のハードルを下げる考えはありますか。

答 利用拡大に取り組んでいきます

認知症サポーター養成講座などで周知し今後も積極的に取り組んでいきます。

にしだ みちかず
西田 方計 議員

質問項目

- 人権啓発・社会人権教育は進んだか
- 周辺部居住の高校生が自力通学でき、将来も住むことを選択肢にできる方策を問う



問 土地差別等への対応は

実態調査結果に基づいた啓発等の計画は。

答 実態調査の結果を踏まえ進めます

啓発用のチラシや動画を現在準備中です。また事業者とも連携し研修支援、通報マニュアルを実効あるものにしていきます。

問 「差別をなくす強調月間」行事の充実を

中学校区単位で地域の特性を活かすとともに、「人権作品集」の充実を図ってください。

答 できることから検討し進めます

各支所や学校と連携し企画していきます。募集対象やジャンルについてもより効果が出るよう工夫します。

問 地区学習等の保護者組織の支援・充実を

将来を見越して、地域を超えた保護者のつながりを支えてください。

答 教育集会所4カ所で組織化されています

今後も保護者と連携して環境を整えていきます。

問 高校生等に対する通学支援策の進捗は

公共交通定期券購入費助成の継続を。

答 たちまちは国の交付金を活用し事業継続をめざします

この件は、三重県も巻き込み議論を深めます。

一般質問

桃井 弘子 議員

質問項目

- 公共交通
- 教育
- 防災



問 地域で運行方法を考え実施していくことがこれからの地域交通のあり方では

各自治協が市とタイアップし、通学・通院・お買い物等、地域のニーズ、ダイヤ・ルート・運賃・運行方法を考え実施すべきでは。

答 地域が地域交通を考えいくことがこれからの地域交通のあり方と考えます

地域の多様性に対応するためには地域が主体となり、近隣の地域とも連携し合いながら、地域住民の移動手段を考えただくことが最も効果的と考えます。地域が考えたことを行政がサポートしていきます。

問 教育版マイクラフトを導入すべきでは

プログラミング的思考も学べ、また協調性を身に付けるということは非認知能力の教育にも繋がると思います。またタブレットを使用するため、不登校の児童生徒も参加でき、これがきっかけで登校する子もいるかもしれません。

答 無料の体験版から活用したいです

すぐに導入は難しいですが、無料の体験版から活用したいです。

問 「新生活スタートアップ応援事業」の実施は

昨年度実施した、高校3年生世代に3万円・中学3年生に1万円の支援金給付を今年度も実施する考えはありますか。

答 実施する考えはありません

現在伊賀市では医療費無料化や、児童手当の拡大が実施されており、また国の施策で子育て応援手当による一律2万円の給付が実施されることが決定しており、この世代への支援が充実してきているためです。

問 伊賀市の財政管理・運用は

財政調整基金の残高と運用内容はどのようにになっていますか。また市民への情報公開は考えていますか。

答 基金は一括で、伊賀市資金運用要綱により運用しています

一括運用基金の内訳は、現金が約65%、債券が約35%で、財政調整基金の残高約63億3千万円に対して、同じ比率で保有していると言えます。債券の途中売却による損失は発生しておらず、今後も金融動向を注視し、安全な運用管理に努め、債券保有状況を市民に公開してまいります。

ふくむら のりちか 福村 教親 議員

質問項目

- 「新生活スタートアップ応援事業」
- 伊賀市の財政管理と運用



北森 徹 議員

質問項目

- 伊賀市夢のある農業振興計画



問 慣行栽培と有機栽培の棲み分け

慣行栽培が良いとか有機栽培が良いとかではなく、それぞれが消費者に価値観を押し付けるのではなく、消費者に価値を見出してもらい消費者自身が選択できる環境が必要では。

答 名張市と共同で伊賀地域独自の作物の登録基準を設けます

たとえば有機JAS認証はじめJAS基準の農産物、特別栽培農産物等の5つの基準を設けて、消費者が選択できる環境にと考えています。

問 夢のある農業→生業として成り立つ農業

都会や海外では有機栽培野菜が高く評価され、日常生活の一部に取り入れています。伊賀市は有機栽培の先進地でもあるので、市外へ売り込みに行くお考えはありますか。

答 伊賀市から世界へ

名張市と共同でオーガニックビレッジ宣言をしているので、学校給食に有機農産物等を取り入れていく連携をしていきながら、三重県内外の同宣言をしている所とも連携を考えていき、その先のステップとして都市部や海外へも考えてまいります。

一般質問

うえだ のりひさ
上田 宗久 議員

質問項目

- 伊賀米の持続的生産のために
- 伊賀市における大規模太陽光発電事業



問 「地域計画」から見た農村集落の現状と課題は何かですか

答 集落営農にも若い人達の担い手が必要です

10数年後の担い手確保には苦慮しているのが現状です。「地域計画」の策定が国の補助事業の要件となることが多いので、未策定の地域にも関係機関と共に呼び掛けます。

問 國の土地改良長期計画の方向性はどのようにですか

答 約50年前の基盤整備より更なる強化が示されています

具体的には、農地の大区画化・農道の拡幅・老朽化した水利施設の高度化などが挙げられます。

げられます。

問 農村集落の疲弊は市にとっても重要な課題です。見解を伺います

答 庁内で横串を刺して全力で取り組みます(市長)

継続的に農業に従事しやすい環境を整えることで、農業集落における空き家・耕作放棄地・鳥獣害被害などが減少し、地域コミュニティが活性化し、農業の持続可能性が高められます。今後、庁内で横串を刺して全力で取り組んで行きます。

あさがわ ともかず
浅川 友和 議員

質問項目

- 子どもが安心して相談できる伊賀市、子ども家庭センターと権利条例の整備
- 伊賀市の図書館再編による、子どもたちの読書リテラシーの格差解消
- 空き家対策の研究成果と危険空き家への市の対応



問 図書館再編による、子どもたちの読書環境の向上へ

子どもが主体的に本を選び、学校で受け取り返却できるようにできますか。

答 学校図書館司書と連携を行います

セット文庫の配達など既存の仕組みを活用し、これまで以上に子どもが本に触れられる環境を工夫します。

問 危険な空き家への現行の対応を見直せますか

市の姿勢が見えにくいとの声があるが、市民へどう示しますか。

答 丁寧な対応に努めています

分かりやすい記載と可能な限り直接説明の場を設けます。

問 こどもの権利条例の進捗は

子ども家庭センター整備指針との連動はどう整理されていますか。

答 令和8年12月の制定をめざし、検討を進めています

相談体制を条例の中に規定し位置づけていきたいです。

問 子どもだけで利用できるSNS相談を

市での周知が少ないですが、積極的にPRする考えはありますか。

答 さらに周知を進めています

市ホームページに「親子のための相談LINE」のリンクを設けます。

みやざき えいき
宮崎 栄樹 議員

質問項目

- 市長就任一年目の成果と課題を問う
- 大規模太陽光発電（メガソーラー）の規制と「自然との共生」政策の展開



問 市長就任一年目の成果は

答 公約は5項目達成しました

公約を進捗管理しており、42項目のうち18歳成人式の中止や子ども医療費の18歳まで窓口無料化など5項目は達成し、34項目は着手していますが、3項目は未着手です。課題は、部局をまたいだ連携が非常に弱いことですので、早急に体制整備に取り組みます。

問 物価高騰対策の方針は

長引く物価高騰により市民生活は大変厳しくなっています。国から交付される物価高騰対策予算の編成方針をうかがいます。

問 市民生活と地域経済を守り抜きます

市民にスピード感を持って届くよう、事務負担が過大とならないように取り組みます。

問 市長はメガソーラーをどう考えますか

青山地域で計画されているメガソーラー事業は、自然や生活環境への影響と、地域内の混乱や対立・分断が生まれることが心配され、国が規制を検討している状況で、容認することはできません。市長はどう考えますか。

答 業者に中止を含めた意思表示します

一般質問

あかほり
赤堀 久実 議員

質問項目

- 適切な価格転嫁と処遇改善で安定した労働環境
- 5歳児健診
- 帯状疱疹ワクチン



問 5歳児健診の実施を

現在5歳児発達相談を市内保育所（園）等の全園で実施され、支援が必要な児童に対して個別対応を丁寧にして下さっていますが、未就園の5歳児や市外の保育所等に通っている児童には実施できていません。5歳児健診を実施して、市内全ての児童が就学に向けて不安がないよう相談体制の充実を図るとともに、サービスが必要とされる児童に対しては適切に支援できる体制が必要ではないですか。

答 令和10年度から実施します

市の5歳児相談では、保健師、心理専門職等が園を訪問しています。また、発達面で気になる児童や相談希望の保護者を対象に面談や教育委員会と福祉部局が巡回訪問し小学校入学に向けて支援を一緒に考えています。必要に応じて療育の利用や医療機関受診の相談支援に取り組んでいます。今後は発達支援専門人材を増やすとともに医師会と協議しながら5歳児健診を来年度3園でモデル的に実施し、令和10年度の本格実施をめざします。

問 産業廃棄物最終処分場に対する伊賀市の対応は

水道水源保護条例は「水源を保護することにより住民の生命及び健康を守ることを目的とする」とあります。津市が水道水源保護条例審査中に事業者と和解して建設用地の一部を買い戻すことにより建設阻止した事例があります。また、紀伊長島町では、紀伊長島町の条例制定の時期が遅かった等の理由により最高裁で逆転され負けています。上記事例は、廃棄物処理法による審議が、すでに三重県で開始または終了していました。

今回の伊賀市の事例は、事業者と地域の市民が条例に基づき意見交換している段階で、三重県はまだ審査していません。この水

道水源保護条例により、伊賀市だけで結論を出していくのですか。

また、建設反対に対して伊賀ふるさと農業協同組合からもご理解をいただいている。伊賀米等の風評被害に対してどう取り組みますか。

答 条例等に基づき適切に対応しています

ふくおか
福岡 正康 議員

質問項目

- 大山田地内に建設予定の産業廃棄物最終処分場
- 大山田公共施設複合化整備方針



てらむら
寺村 京子 議員

質問項目

- 小学生にもインフルエンザワクチンの助成を
- 0～2歳児の保育受け皿不足をどう解消するのかー民間小規模保育所の早期整備を
- 財政硬直化を打破するクリエイティブな人材育成を



問 小学生にインフルエンザ予防接種の助成を検討してください

インフルエンザ流行により学級閉鎖が既に昨年1年間を上回るペースで発生。子どもの学びへの影響や保護者の負担も大きいです。インフルエンザの予防接種、小学生は2回接種で助成がなく自己負担7,000円以上と他の年代と比較して高額です。1回1,000円の助成を検討していただけませんか。

答 検討しません（市長）

問 市中心部の0～2歳の私的待機児童、次の対策は

現在私的含む待機児童数は87名。対策の1つであった桃青の丘幼稚園の認定こど

も園化検討を凍結しましたが、市中心部の保育不足にどう向き合いますか。

答 対策は考えています（市長）

私の待機児童問題解消には責任を持って取り組みます。地域型保育の導入や、既存保育所の再編など様々検討しています。

インフルエンザ予防接種

小学生への助成はなく、自己負担額が突出して高い。

	未就学児	小学生	中学生～大人	65歳以上
接種必要回数	2回	2回	1回	1回
助成の有無	あり (1,500円/回)	なし	なし	あり
自己負担額	約3,000円 ～ 4,000円	約7,000円 ～ 9,000円	約3,000円 ～ 5,000円	2,000円

☆一般質問☆ 本文は、質問議員が執筆し、質問議員の責任において掲載しています。

一般質問

うちはら あつし
内原 篤 議員

質問項目

- 障がい者医療費の公平性と現物給付
- 身よりのない高齢者の終活支援と最期の安心体制



問 障がい者への医療費支払いについて

障がい者医療費助成の助成方法を現物給付にする事はできないですか。

答 前向きな検討を行ってまいります

障がいのある方の医療費助成について窓口払いと無料にできないかとの件については、医療へアクセスする事への妨げになつてはいけないと思っており、またその事が社会へ参画していく事への妨げになつてもいけないと感じています。今後はどういう課題があるのかをしっかり議論して、関心をもつて取り組んでいきたいと思っています。

問 終活支援については

今後の終活支援の在り方について市の方針性は。

答 さらなる取り組みが必要です

日常生活から終末期におけるサポート体制の確立が急務です。ご本人が直面する生活維持に関わる入院や入所等における緊急連絡先の確保、また親族に代わって日常生活における見守りなどを行う制度として既存の制度では対応できない『はざま』にある方を対象に事業構築することをめざしています。

もりかわ とおる
森川 徹 議員

質問項目

- 市長就任1年を振り返って
- 自主防災組織



問 自主防災組織の現状は

合併後、20年以上放置されてきた自主防災組織*の考え方。

答 低調な状況です

その地域の自主防災組織が低調な課題は、リーダーに依存してしまったということと、自主防災活動のマンネリ化、またリーダーが高齢化してきていること等が考えられます。

*自主防災組織

地域住民が「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識に基づき自主的に結成する防災組織

問 これからどうするのか

いつ災害が起こるか分からぬ状況で組

織が完全でないところは指導・監督する必要があると考えます。また自治協議会では広すぎて住民の安全が担保できないことから自主防災組織を再構築する必要があると考えますが。

答 現状把握をやっていきたいです

現在自治協議会では備蓄品などは配備していますが、区単位でこれらが配備できるかどうかを確認できていないところもあるので今後確認していきたいと思います。また、市内の自主防災組織の現状が具体的にどうなっているかも含めてなるべく早い段階で現状把握をしっかりとやっていきたいと考えています。

ももがみ まな
百上 真奈 議員

質問項目

- 住民課窓口業務の外部委託を直営にもどすことにした意義
- ジェンダー格差と高齢単身女性が抱える問題
- こども誰でも通園制度の本格実施を前に



問 住民課窓口業務を直営にもどす理由と今後は

平成29年から外部委託してきた住民課窓口業務を直営にもどす理由と今後のあり方を伺います。

答 専門スキルの継承と行政責任を果たすため(市長)

職員数削減を目的に民間委託してきましたが、業務の知識、スキルが継承できず職員の人材育成に深刻な影響が見えたため行政が責任をもって行うこととしました。今後は市民の安心、安全、幸せ、公共性を守る観点から専門知識を持つ人材育成を行い安定的で質の高い窓口サービスを提供していきたいと考えています。

問 高齢単身女性の貧困要因と支援の必要性は

高齢単身女性の相対的貧困率は44.1%と高いですが、その要因と支援の必要性について伺います。

答 ジェンダー格差の解消と支援が必要です(市長)

要因は男女賃金格差や非正規雇用など様々なジェンダー格差による不平等が強いられていることが考えられ、何らかの支援が必要と考えます。



特集

地域の声を市政に届けます！

市議会地域意見交換会 活動報告

市議会では、市議会議員と市民が自由に情報や意見を交わし、よりよい市政の実現や政策提言につなげるため、地域意見交換会を実施しています。今年度は6月から2月にかけて、議長を除く議員が7

つの班に分かれて各住民自治協議会を訪問し、皆さまの声をお聴きしています。各地域でいただいたご意見は報告書にまとめ、市議会ホームページで公開していますので、ぜひご覧ください。

河合

10月14日(火)

- 地域（支所、公共施設等）のありかた
- 空き家対策



阿波

10月24日(金)

- 阿波診療所
- 旧大山田東小学校の体育館等の維持管理費
- 産廃対策
- 獣害対策



新居

10月17日(金)

- 少子高齢化に伴う地域課題（環境整備、地域交流、空き家対策等）



高尾

10月24日(金)

- 旧高尾小学校体育館の今後
- 岳の里の今後



島ヶ原

10月22日(水)

- 小中学校の統廃合計画
- 保育所の民営化
- 消防署分署の統合



桐ヶ丘

10月30日(木)

- 桐ヶ丘地区の汚水処理施設
- 柏尾メガソーラー建設計画



小田町

10月23日(木)

- 議会運営（政倫審）
- 地域防災
- 後継者問題

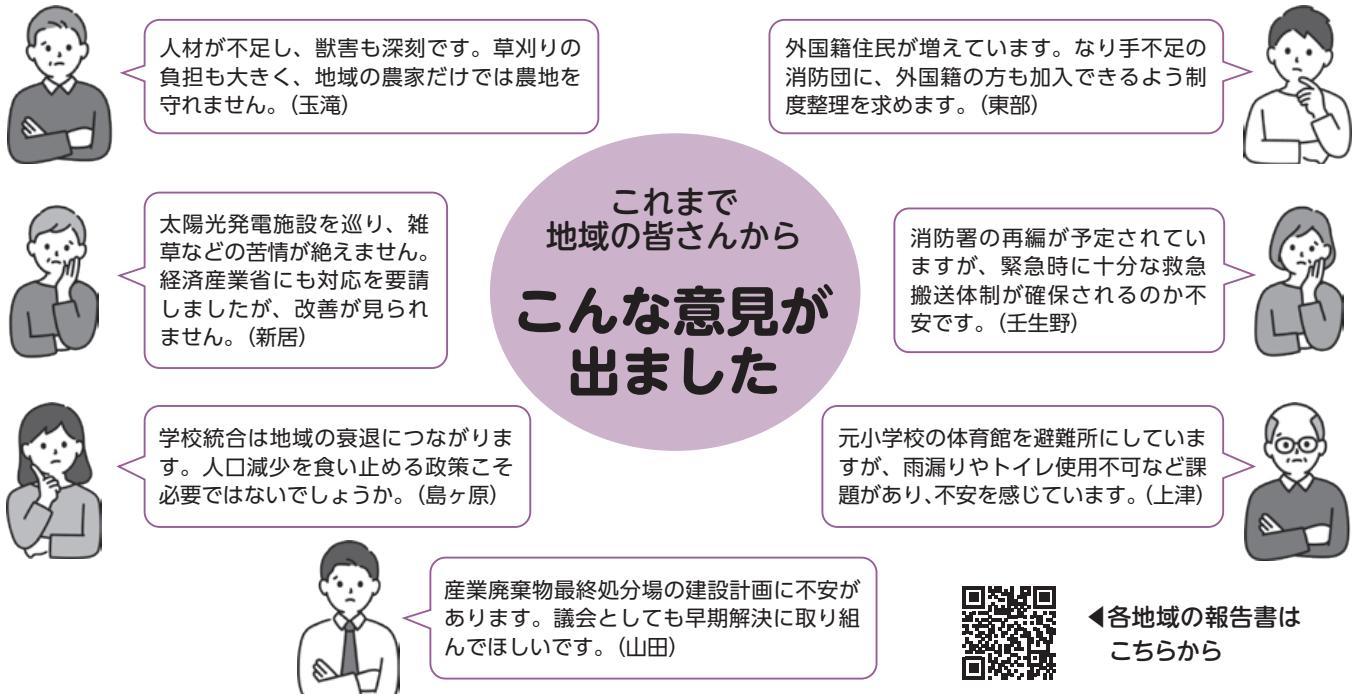


比自岐

11月4日(火)

- 地域の担い手不足
- 獣害対策
- コスモス号運行ルート





矢持 11月4日(火)

- 防犯カメラ設置
- 公共交通対策
- 市民センターのあり方

柘植 11月20日(木)

- 大和街道における都市計画、活性化課題等
- 柘植駐在所のあり方
- 空き家対策

上野西部 11月13日(木)

- 旧上野ふれあいプラザの今後
- 地域の担い手

ゆめが丘 11月21日(金)

- 遊歩道の街灯
- ゆめが丘団地内の公園
- 防犯灯設置
- 自治会の参加
- 道路の樹木の伐採
- ゆめが丘の将来

東部 11月15日(土)

- 消防団の人材不足
- 旧上野市庁舎 (SAKAKURA BASE)
- 観光と交通
- 旧上野ふれあいプラザ
- デイサービス

西柘植 11月26日(木)

- 地域包括交付金
- 地区内の事業者との取り組み
- 地区市民センターの活用状況

今年度の地域意見交換会では、各地域から、少子高齢化や担い手不足、公共施設の利活用、空き家対策、防災・防犯、公共交通など、暮らしに直結する多くの声が寄せられています。特に農山村地域では、消防団などの地域活動や農林業の担い手不足、施設の利活用、移動や安全の確保など、地域単独では解決が難しい共通課題が数多く提起されています。地域ごとに状況は

異なる一方で、「人」と「拠点」をどう守り、将来につなげていくかという視点は共通しています。市議会としては、これらの声を重く受け止め、各常任委員会を主体に、今後の所管事務調査や政策提言に生かしていきます。

各地域のご協力とご参加に心より感謝いたします。

ようこそ 伊賀市議会へ！



市内小学校の児童のみなさんが、
議場見学に来てくれました！



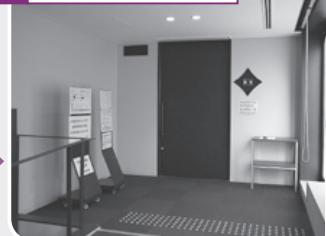
＼市議会の傍聴に行ってみよう！／

1 傍聴受付



市役所5階の議会事務局前で「傍聴人受付カード」に住所・氏名などを記入します。

2 傍聴席へ入る



すべての会議が
傍聴できます。

傍聴席から見た議場



傍聴時のルール

- ・私語や拍手は禁止です。
- ・帽子やコート、マフラーは脱ぎましょう。
- ・携帯電話での通話、写真・動画撮影、録音、飲食は禁止です。

令和8年2月定例月会議日程（予定）

会議期間29日間

日	月	火	水	木	金	土
2/22	23	24	25	26 本会議 (議案上程等)	27	28
3/1	2	3	4	5 本会議 (一般質問)	6 本会議 (一般質問)	7
8	9 本会議 (一般質問)	10 各常任委員会 (予算・決算を除く)	11 各常任委員会 (予算・決算を除く)	12	13	14
15	16 各常任委員会 (予算・決算を除く)	17 予算常任委員会	18 予算常任委員会	19 予算常任委員会	20	21
22	23	24	25	26 本会議 (採決等)	27	28
29	30	31	4/1	2	3	4

※本会議、予算常任委員会は、午前10時から始まります。その他の各常任委員会は、本会議初日に決定します。

※日程は、変更になる場合があります。

本会議・予算常任委員会の模様は、午前10時からケーブルテレビで生中継しています。
(再放送は午後7時から) また、本会議・各常任委員会・予算常任委員会の模様は、伊賀市議会チャンネル (YouTube) でも録画配信しています。ぜひご覧ください。

ご感想をお寄せください

議会だよりや議会のテレビ放送、YouTubeをご覧になったご感想やご意見をお寄せください。

郵送 〒518-8501

伊賀市議会事務局

「議会だより感想」宛

TEL 0595-22-9687

E-mail gikai@city.iga.lg.jp

FAX 0595-24-7901

※伊賀市議会だよりの点字版・録音版を希望される場合は、上記までお問い合わせください。



伊賀市議会ホームページ

伊賀市議会

検索

広報広聴委員の紹介



浅川友和 森中秀哲 寺村京子
大石亮子 山下典子 内原 篤 陶山美佐
(委員長) (副委員長)

この度、広報広聴委員に就任したメンバーです。市民の皆様にとって、議会がより身近で、頼れる存在と感じていただけるよう、委員一丸となって努めてまいります。

「議会は何をしているのか分かりにくい」というお声をいただけることがあります。私たちの役割は、その「距離」を縮めることだと考えています。

今期は、市民の皆様に「手に取っていただける、読み進めていただける」紙面づくりに全力で取り組みます。具体的には、写真等を効果的に活用することで、議会の動きを分かりやすくお伝えします。

そして、市民の皆様の目線に立った「議会だより」をめざしますので、お気づきの点があれば、ぜひお気軽にお声をお寄せください。

(広報広聴委員長 山下 典子)

●お詫びと訂正

市議会だよりNo.83 (2025.11.1発行) の表紙に記載しました花垣地区住民自治協議会の井元修三様のお名前に誤りがありました。ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げ、ここに訂正いたします。

編 集
後 記

一年間この議員で広報広聴委員会を務めてまいりますので、よろしくお願いします。

新体制となって最初にお邪魔したのは高尾住民自治協議会。取材の中で「助け合い」という言葉を何度も聴かせていただきました。取材したのは、12月の寒い日でしたが、皆さんの言葉に心が温かくなりました。ありがとうございました。
(委員長:山下 典子)

次号は令和8年5月1日です

発行：伊賀市議会 編集：伊賀市議会広報広聴委員会



深さ4メートル！穴の内部に入れる「甌穴まつり」

指定管理者制度を導入した住民自治協議会を紹介する第11回。今回は「全員自治」というスローガンをもって様々な取り組みをされている高尾住民自治協議会を取材しました。

Q：高尾地区の特徴、見どころは。

A：高尾地区は伊賀市の最南端に位置し、名張市・津市と境界をなしています。津市との境界には、標高957mの尼ヶ岳があります。富士山に形が似ていることから伊賀富士とも呼ばれ、天気の良い日には、ほとんど毎日、数名から数十名の地元住民や、登山愛好家が訪れ、ゆる山登山として親しまれています。人口は約240人と過疎が進む地域ですが、豊かな自然に包まれて、人の温かさを忘れない地域づくりをめざして頑張っています。

Q：地域を維持するための取り組みは。

A：高尾には、お互いに助け合うという根強い文化があります。住民の要望により「高尾高齢者生活支援センター岳の里」を地元有志ボランティアにより毎週火曜日運営しています。また、15年後には人口が約100人になると推計されることから、先を見越して、高尾ならではの幸福感の向上をめざしています。自治の役割を担う役員に責任を持たせる仕組みは負担になるため、全員が責任を持つ意識を広げていこうという思いで「全員自治」というスローガンをもって行っています。



地域のお年寄りの週1回の楽しみの場「岳の里」

Q：歴史文化・遺産を継承するのにどのようなことをされていますか。

A：伝説の豪族・藤原千方と四鬼の伝説を語り継ぎ地域活性化をめざす「千方伝承会」は逆柳の甌穴（血首ヶ井戸）見学等のイベントを実施しています。甌穴見学には昨年約150人が参加、千方窟ハイキングには約50人参加しました。こうした取り組みが関係人口づくりになっていると思います。

Q：指定管理にして良かったことは。

A：地域の自治を担う役員の負担を減らすために指定管理にしました。現在、4人体制で運営しており、地元の住民等の要望にこまめに対応できるようになりました。

Q：防災を通じた地域の助け合いについてお聞かせください。

A：消防車が来るのが40分～1時間かかる地域なので、災害がおきた時が心配です。地区市民センターの職員に消防団基本団員1人、消防団支援団員が2人いることで、消防団車両を動かすことができます。地区市民センターで地域全体の動きが把握できるので、市民センターの職員が対応するという助け合いができ、住民の安心感と地域の不安の解消につながります。



地域は自分たちの手で守る！消防団訓練